

ちゆと吸へば土用蛭もちゆと応ふ

藤田湘子

蛭が好きかと聞かれれば、イエスとは答えにくい。蛭汁に入った蛭を、一個一個食べるのも煩わしい。

ところが、作者は殊のほか蛭好きだったようである。

昭和五十八年八月六日、「忝な土用蛭の大き粒」と詠んでいる。また、同年三月には、「経文も聖書も知らず蛭汁」と、仏や神より蛭の健康法に絶大の自信を持つていた様に見受けられる。確かに、蛭に含まれているオルニチンはアミノ酸の一種で、肝臓の働きを助け、細胞の新陳代謝や解毒作用、二日酔いの予防にも役立つらしい。

「ちゆと吸へば」の可愛げなエロチック感。すなわち名句には、どこか性愛に繋がる生き物の本能が含まれているようだ。

2004年 (H16作) 第十一句集『てんてん』 鑑賞・轍郁摩